

北海道縦貫自動車道(中<sup>なか</sup>川<sup>かわ</sup>～天<sup>てし</sup>塩<sup>お</sup>)

第2回 地域意見聴取 記者発表資料

令和7年12月11日

国土交通省 北海道開発局

## 北海道縦貫自動車道（中川～天塩間）の計画について

### 地域の意見聴取（第2回）を実施します

～皆さまの御意見をお聞かせください～

留萌開発建設部では、北海道縦貫自動車道（中川～天塩間）の計画について、地域の皆様や道路を利用される方からの御意見を道路計画に反映するため、アンケート及びヒアリング調査を行いますので、御協力をお願いします。

#### ＜地域の意見聴取概要＞

中川～天塩間のルート検討に当たり、重視すべき点や配慮すべき点についての御意見をお伺いします。

#### （1）アンケート調査

調査票：中川町、天塩町、幌延町、豊富町及び稚内市の各自治体にお住まいの各世帯に調査票を配布いたします。また、稚内市役所、各役場及び道の駅（なかがわ、てしお、わっかない）に調査票を備付けます。

回答方法：①インターネットによる回答（留萌開発建設部ホームページからアクセスできます）

・URL [http://www.hkd.mlit.go.jp/rm/douro\\_keikaku/s2j3ut00000063dd.html](http://www.hkd.mlit.go.jp/rm/douro_keikaku/s2j3ut00000063dd.html)

②調査票（返信はがき）による回答

・最寄りの郵便ポストへ

・稚内市役所、各役場及び道の駅（なかがわ、てしお、わっかない）に設置の回収ボックスへ



実施期間：①インターネットによる調査

令和6年 9月13日（金）から令和7年1月31日（金）まで

②調査票の配布及び備付けによる調査

令和6年10月15日（火）から令和7年1月31日（金）まで

#### （2）ヒアリング調査

関係自治体や関係団体、事業者の皆様にインタビュー形式のヒアリングを実施します。

※第34回地方小委員会での委員からの意見を踏まえ「将来の道北の物流体系を考慮した必要な道路機能」について、中継輸送実証実験に合わせてヒアリング予定。

（中継輸送実証実験【道北方面】令和6年8月8日～令和7年2月（予定））

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 留萌開発建設部 道路計画課 電話 0164-42-4526

道路計画課長 葛西 敏行（内線 351）

道路調査官 堀田 孝也（内線 360）

留萌開発建設部ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp/rm/>



# アンケート配布地域及び回収ボックス設置箇所

## 設置場所

市役所・役場

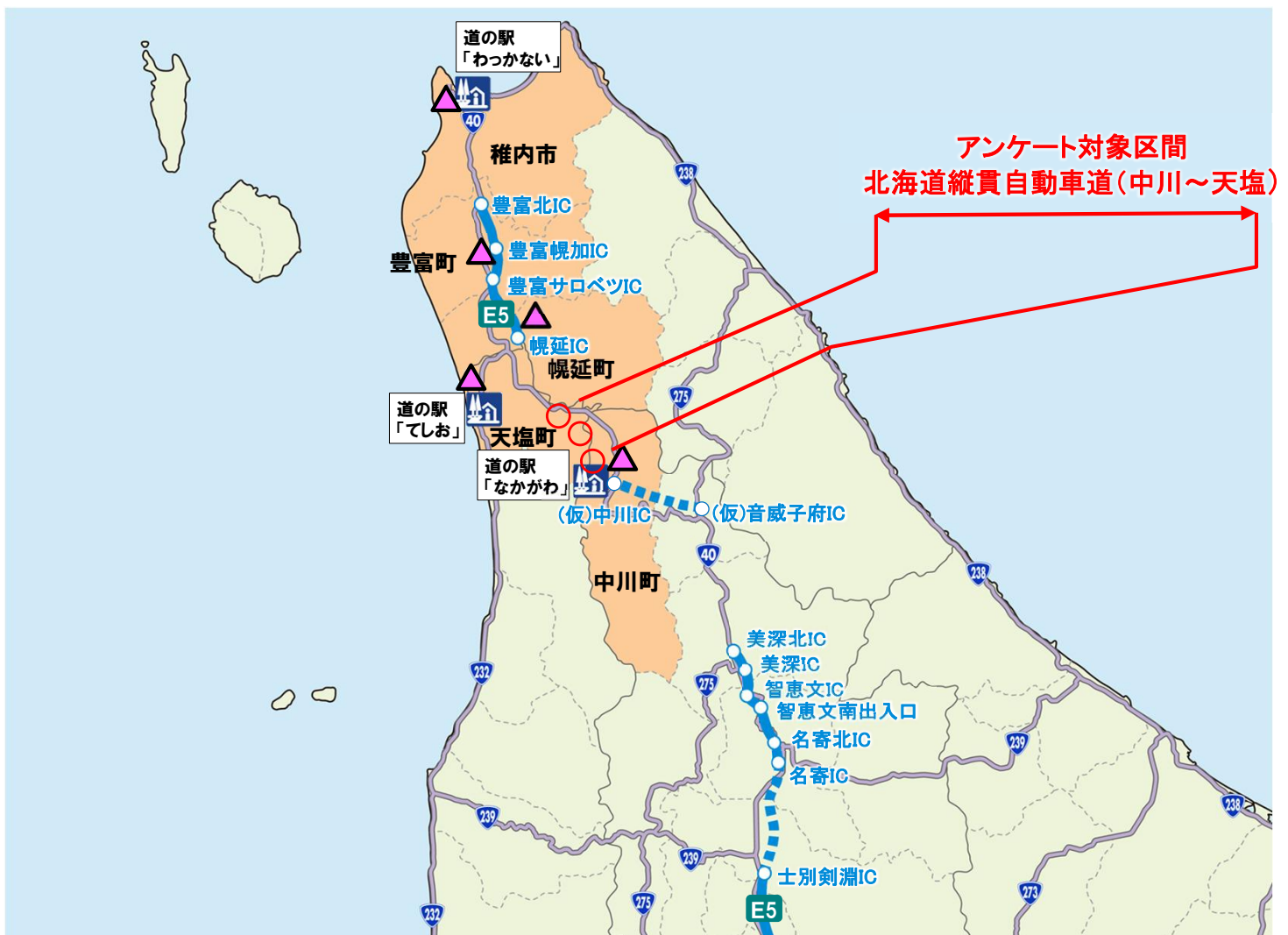
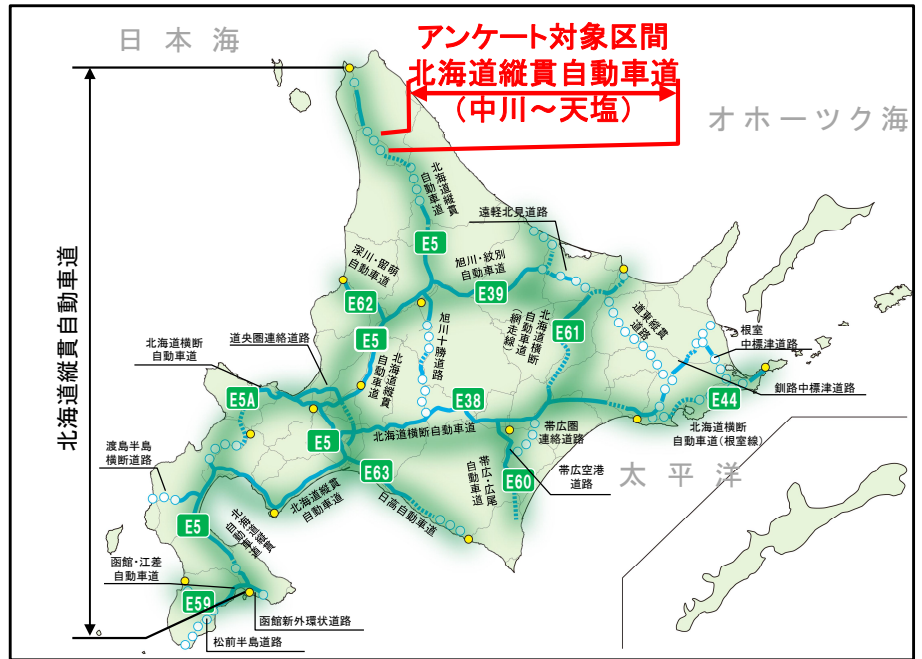
中川町役場、天塩町役場、幌延町役場、豊富町役場、稚内市役所

道の駅

「なかがわ」「てしお」「わっかない」

凡 例	
開 通 区 間	
事業中区間	
調査中区間	
総合振興局 振興局	

凡 例		
アンケート	配布地域	
回収ボックス 設置箇所	市役所・役場	
	道の駅	



# 北海道縦貫自動車道(中川～天塩間)における 道路計画に関する第2回アンケート調査

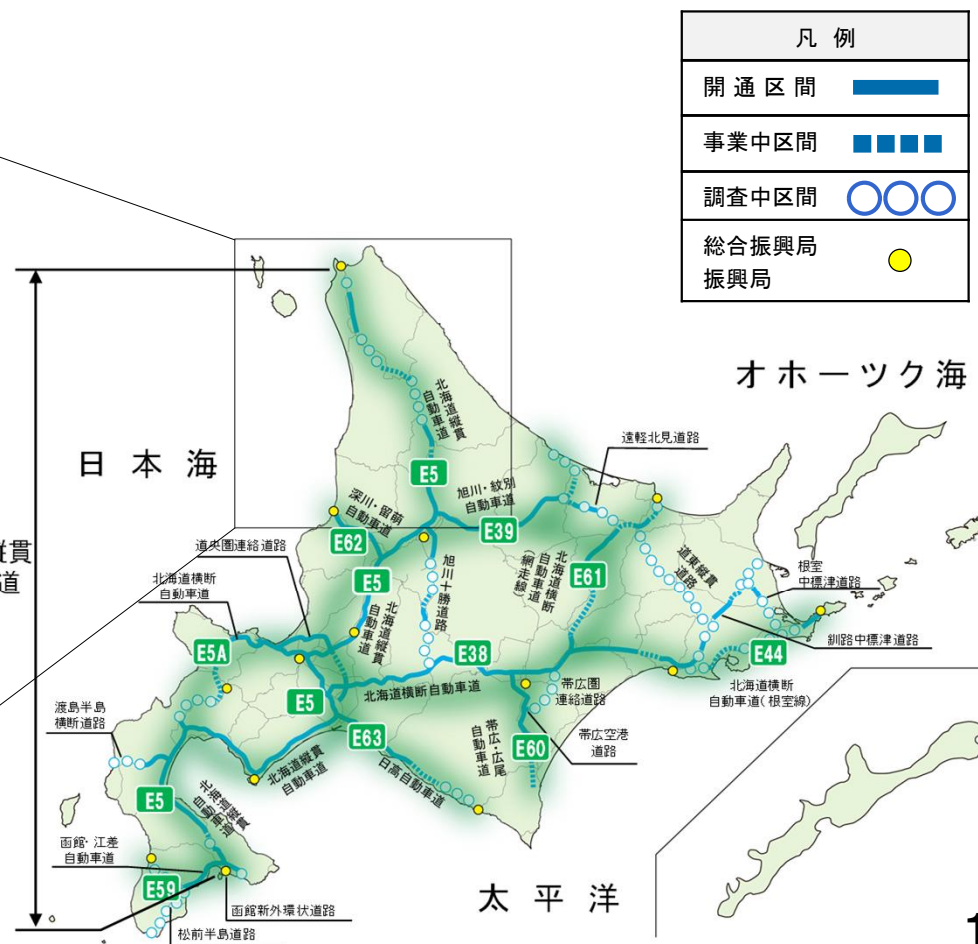
北海道縦貫自動車道は、函館市を起点として室蘭市、札幌市、岩見沢市、旭川市等を経由し、稚内市へ至る道路です。

道北圏と道央圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、物流の効率化等の支援を主な目的として整備を進めています。本アンケートは、このうちの中川～天塩間の道路計画にあたり、計画づくりの初期段階から地域の皆様へ情報提供を行うとともに、広くご意見をお聞きし、それを計画に反映していくための取り組みとして実施するものです。

令和5年6月から8月にかけて実施しました第1回意見聴取では、地域の皆様が日ごろ感じている地域の課題や、必要な道路機能について意見を頂きました。ご協力ありがとうございました。

今回の第2回意見聴取では、ルート検討にあたり重視すべき点や配慮すべき点についてお聞きしますので、本アンケートにご協力いただきますよう、宜しくお願いいたします。

■このアンケートでは、中川～天塩間のことについてお伺いします。



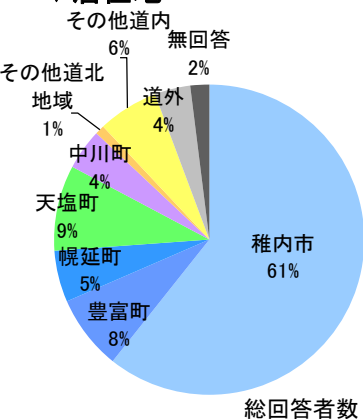


# 第1回意見聴取の結果

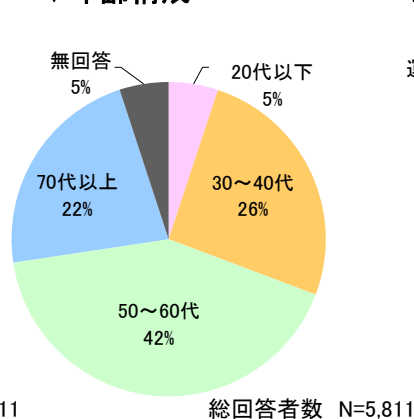
アンケートには、地域の住民や道路を利用される方などから5,811件の回答をいただきました。

## 回答者の居住地、年齢、運転頻度、国道40号中川～天塩間の利用頻度、利用目的

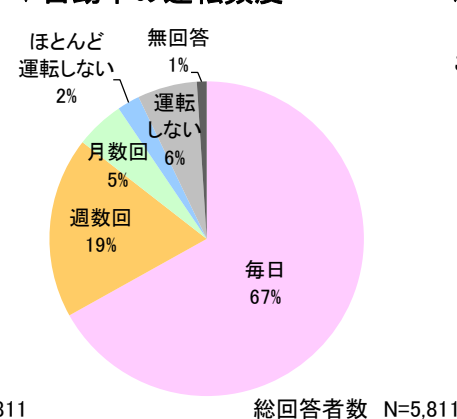
### ▼居住地



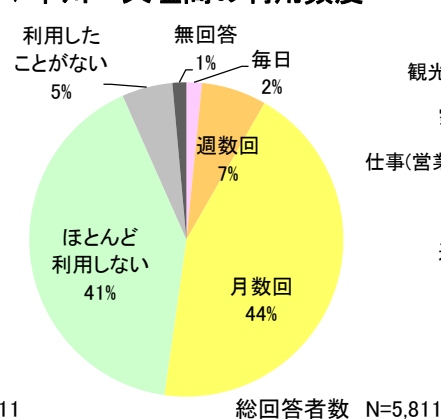
### ▼年齢構成



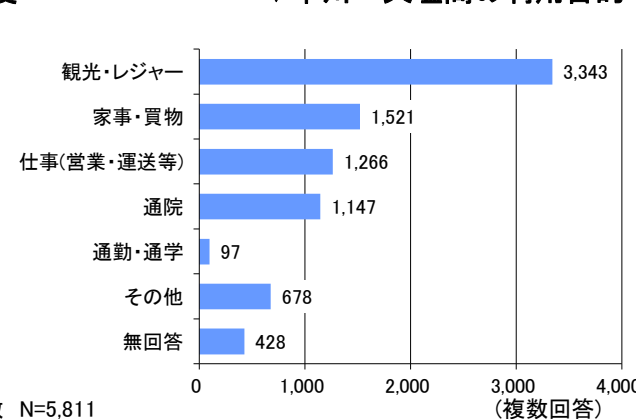
### ▼自動車の運転頻度



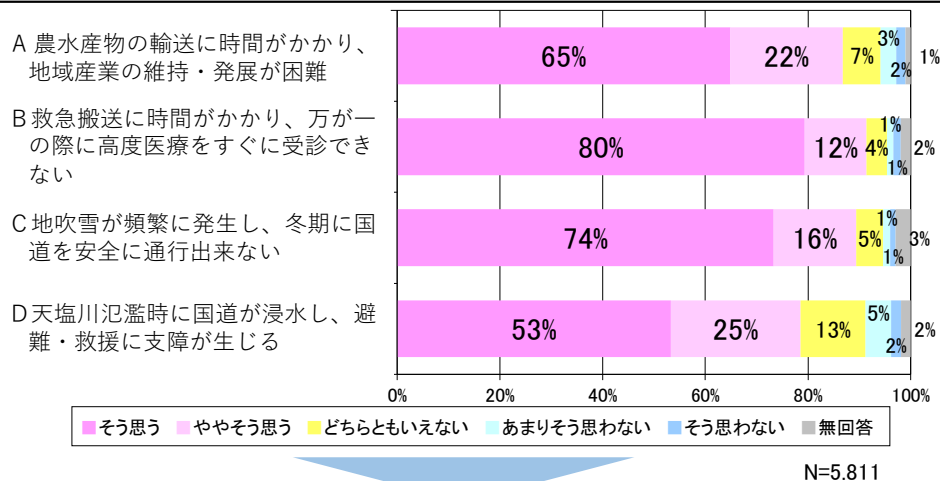
### ▼中川～天塩間の利用頻度



### ▼中川～天塩間の利用目的

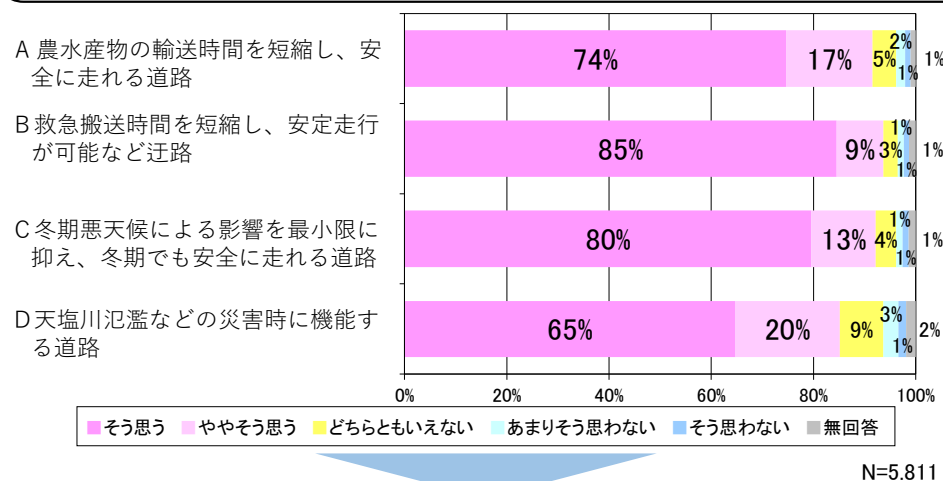


## 将来を見据えた地域の課題



- ・将来を見据えた地域の課題は、すべての項目で概ね高い賛同意見を頂きました。
- ・特に「救急搬送に時間がかかり、万が一の際に高度医療をすぐに受診できない」、「地吹雪が頻繁に発生し、冬期に国道を安全に通行出来ない」が課題であるとの回答を多くいただきました。

## 中川～天塩間に必要な道路機能

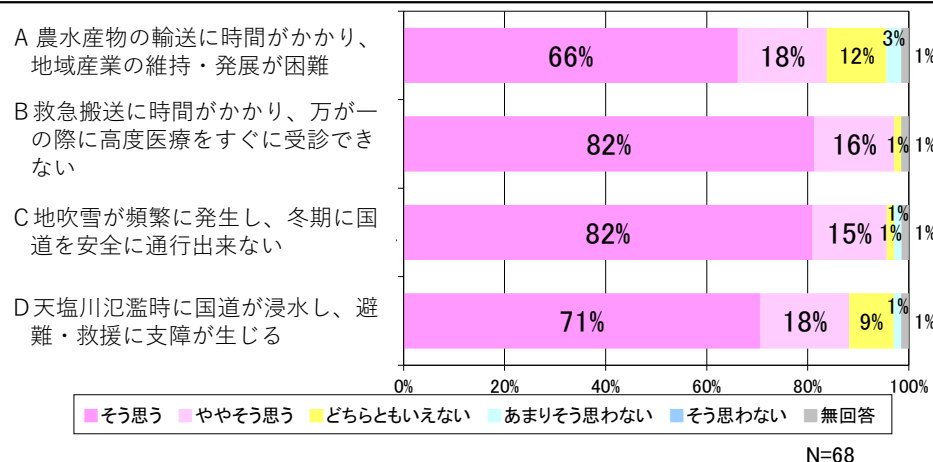


- ・中川～天塩間に必要な道路機能は、すべての項目で高い賛同意見を頂きました。
- ・特に「農水産物輸送の時間短縮し、安全に走れる道路」、「救急搬送時間を短縮し、安定走行が可能な道路」、「冬期悪天候による影響を最小限に抑え、冬期でも安全に走れる道路」が必要であるとの回答を多くいただきました。

# 第1回意見聴取の結果

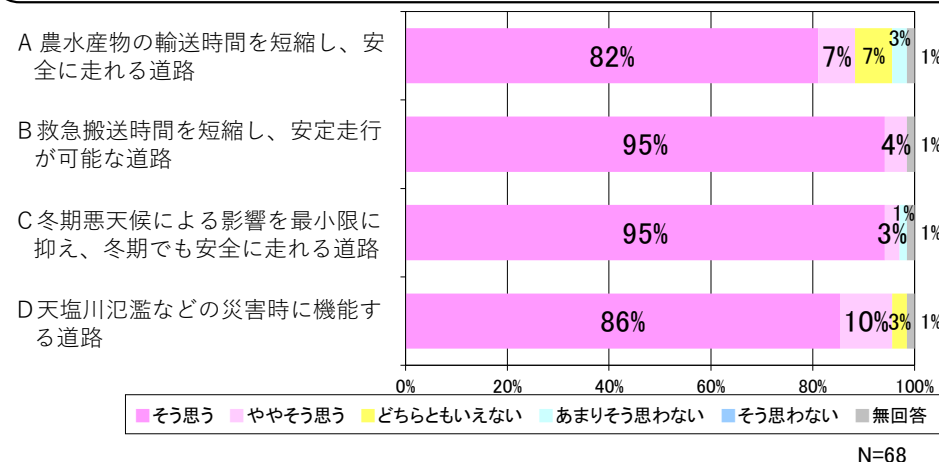
ヒアリング調査では、沿線自治体や各団体から68件の回答をいただきました。

## 将来を見据えた地域の課題



- ・将来を見据えた地域の課題は、すべての項目で高い賛同意見をいただきました。
- ・特に「救急搬送に時間がかかり、万が一の際に高度医療をすぐに受診できない」、「地吹雪が頻繁に発生し、冬期に国道を安全に通行出来ない」が課題と多くの回答をいただきました。

## 中川～天塩間に必要な道路機能



- ・中川～天塩間に必要な道路機能は、すべての項目で高い賛同意見を頂きました。
- ・特に「救急搬送時間を短縮し、安定走行が可能な道路」、「冬期悪天候による影響を最小限に抑え、冬期でも安全に走れる道路」、「天塩川氾濫などの災害時に機能する道路」が必要であるとの回答を多くいただきました。

## 第1回アンケート調査・ヒアリング調査のまとめ

- 多くの道路関係者や各団体の皆様  
が地域の課題に対して道路整備の  
必要性を感じています。
- 特に、速達性や安定性・安全性、災  
害時における道路の機能確保に対  
して多く回答をいただきました。

頂いた意見を踏  
まえ政策目標を  
設定しました

### 中川～天塩間に必要とされる政策目標

地域を支える農水産業の輸送経路の速達性・安定性・安全性の向上

地域の暮らしを支える高次医療施設への速達性・安定性の向上

災害発生時の避難・復旧活動を支える道路の機能確保

## 課題解決のための対策案

○第1回地域意見聴取で、地域の課題、中川～天塩間に必要な道路機能について確認したことから、政策目標の設定に必要な機能と配慮すべき事項等を踏まえ、以下のような3つの対策案を設定。

### 政策目標

地域の農水産業を支える  
輸送経路の速達性・安定性  
・安全性の向上

地域の暮らしを支える  
高次救急医療機関への  
速達性・安定性の向上

災害発生時の  
避難・復旧活動を支える  
道路の機能確保

### 政策目標 達成に必要な 機能

- ・空港・港湾等の物流拠点への速達性の高い道路
- ・狭小幅員区間や地吹雪箇所における輸送時の安定性、安全性の確保

- ・高次医療施設のある名寄市への速達性の高い道路
- ・冬期悪天候時の救急搬送の安定性向上による患者の負担軽減

- ・冬期悪天候時や洪水浸水時においても機能する道路
- ・地域の基幹道路の代替性確保

### 配慮すべき ポイント

・地域への影響 ・環境への影響 ・工事中の影響 ・経済性

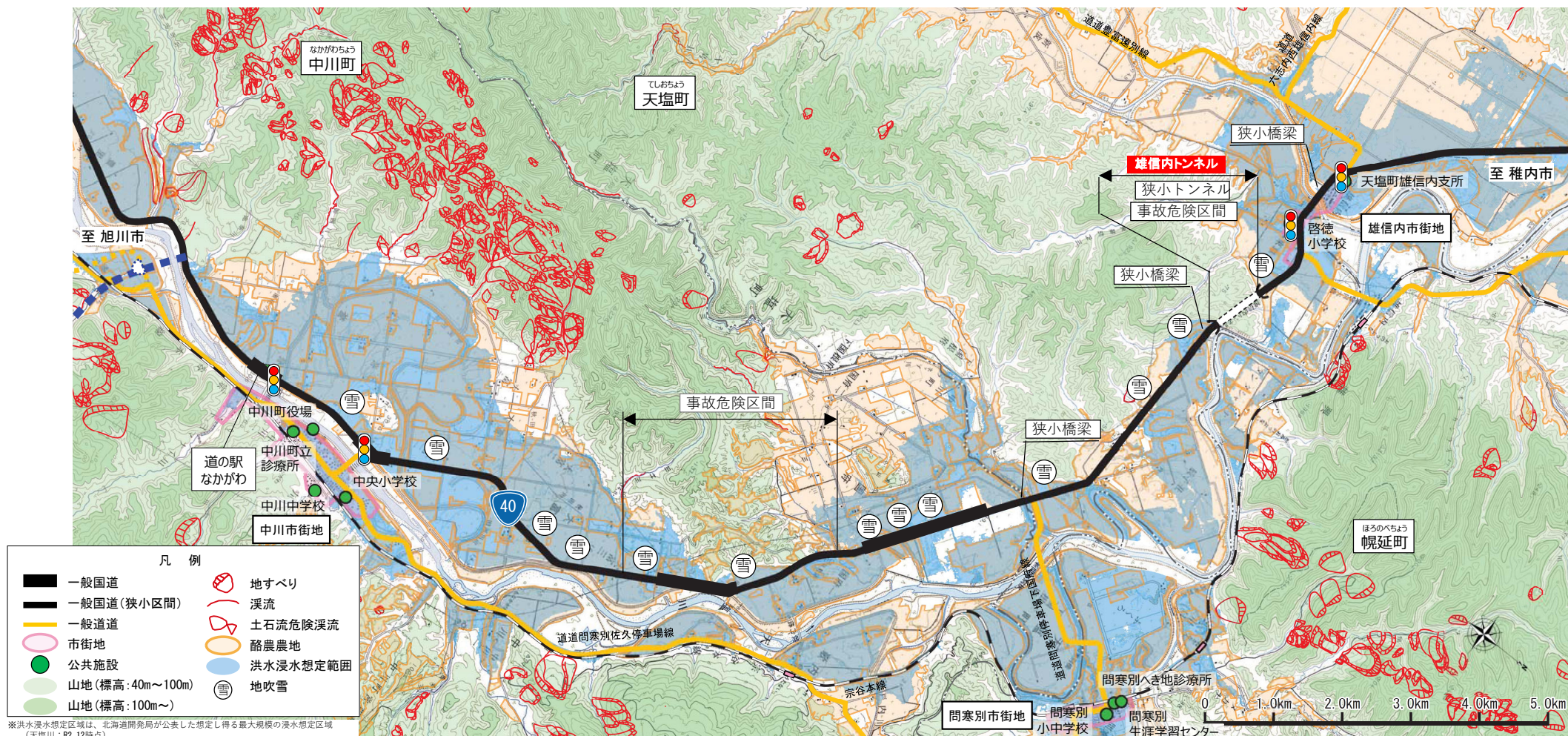
### 3つの対策案と 整備イメージ





## 対策案のコントロールポイント

○各対策案検討のコントロールポイントとしては、市街地や公共施設、基幹産業である酪農農地、洪水浸水想定範囲等の影響を極力回避しつつ、市街地へのアクセス性に配慮。



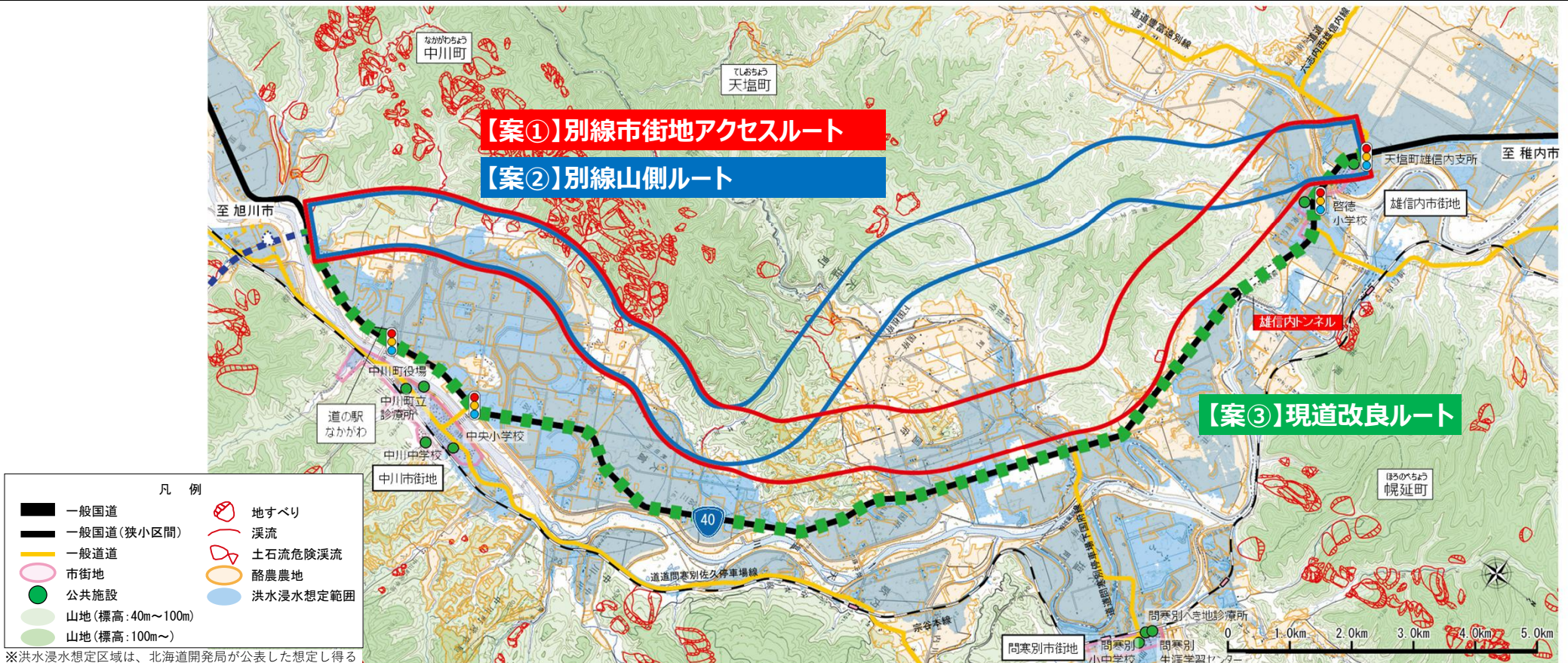
※国道40号 ・ 中川～下国根府間 吹雪による通行止め1回（H24～R3） ・ 下国根府～天塩間 吹雪による通行止め3回（H24～R3）

回避すべき施設等 (社会的状況による要因)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市街地</li> <li>・ 公共施設（役場、病院、学校、福祉施設等）</li> </ul>
配慮すべき事項 (自然環境)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 酪農農地</li> <li>・ 洪水浸水想定範囲、地すべり箇所</li> </ul>



# 対策案の比較

○コントロールポイントを踏まえ、政策目標達成に必要な機能から3つの対策案を設定。



## 案① 別線市街地アクセスルート

(別線整備により、洪水浸水想定範囲等の課題箇所を回避しつつ、市街地へのアクセスにも配慮したルート)



- ・全線別線で自動車専用道路を整備するため、サービス速度は確保しやすい。
- ・ルート帯が現国道や市街地から近傍で、アクセス性や大規模災害時の代替性は確保される。
- ・事業費は対策案の中で中位。

## 案② 別線山側ルート

(別線整備により、洪水浸水想定範囲等の課題箇所を回避しつつ、酪農農地を極力回避するルート)



- ・全線別線で自動車専用道路を整備するため、サービス速度は確保しやすいが、酪農農地を極力回避することで、案①よりも延長が長くなり時間短縮効果は劣る。
- ・大規模災害時の代替性は確保される。
- ・事業費は対策案の中で高価。

## 案③ 現道改良ルート

(現道改良により、洪水浸水想定範囲等の課題箇所を極力解消するルート)



- ・現道改良であるため、サービス速度は向上しない。
- ・現道改良であるため、大規模災害時の代替性は確保されない。
- ・現道改良するため、事業費は対策案の中で安価。



## 案① 別線市街地アクセスルート

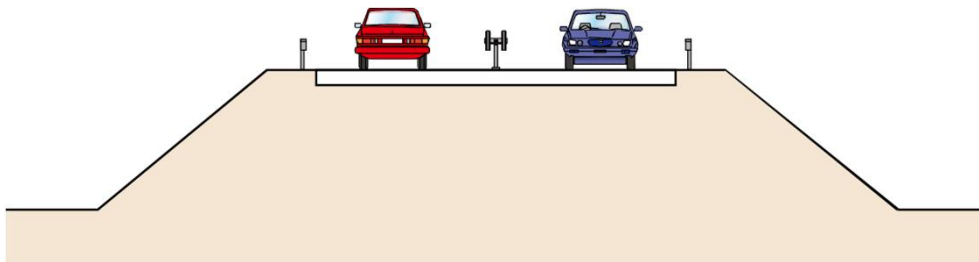
## 案② 別線山側ルート

全線別線で設計速度※：80km/h

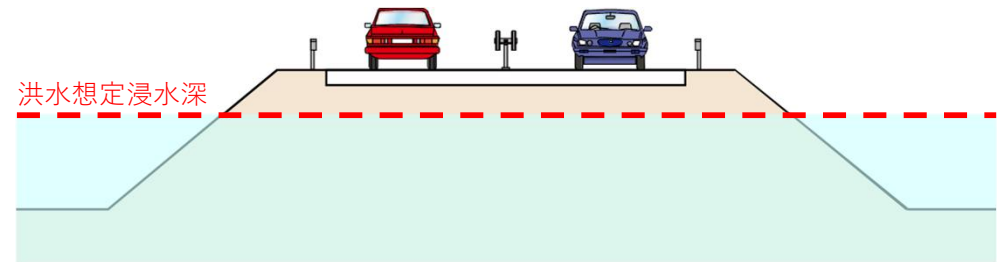
### ○ 整備方法 【別線整備】

中川～天塩の全区間に自動車専用道路を整備します

一般区間



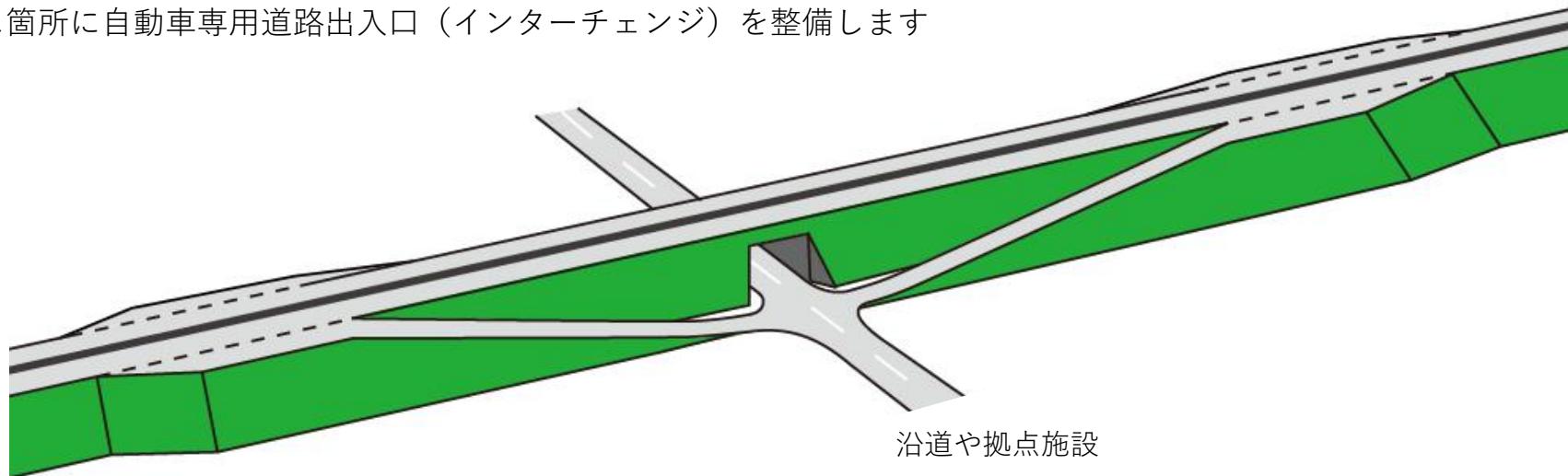
洪水浸水想定範囲を  
嵩上げで回避する区間



※洪水想定浸水深より高い位置に道路整備します

### ○ 沿道や拠点施設へのアクセス方法

アクセス箇所自動車専用道路出入口（インターチェンジ）を整備します



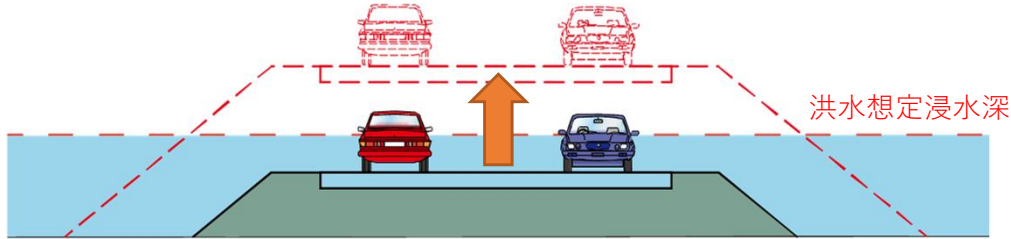
※設計速度は、安全・快適に走行できる速度であり、実際の交通規制の速度は設計速度と異なる場合があります

## 案③ 現道改良ルート 設計速度※60km/h

### ○ 整備方法

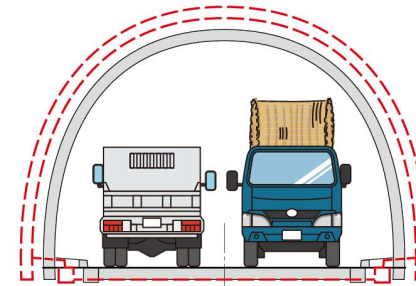
#### 【洪水浸水想定区間の現道対策】

洪水による浸水が想定される区間は現道の高さをあげた道路を整備します。



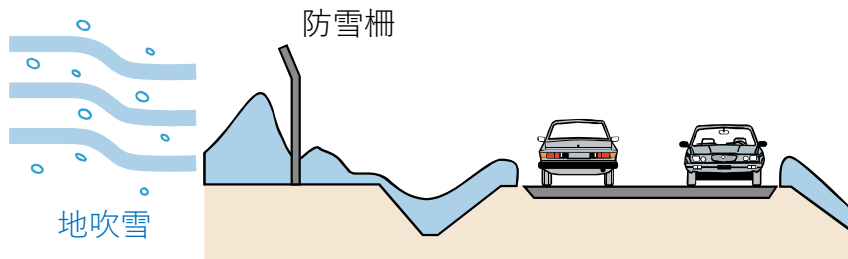
#### 【狭小トンネル区間の対策】

狭小トンネル区間は、トンネルの拡幅を行います。



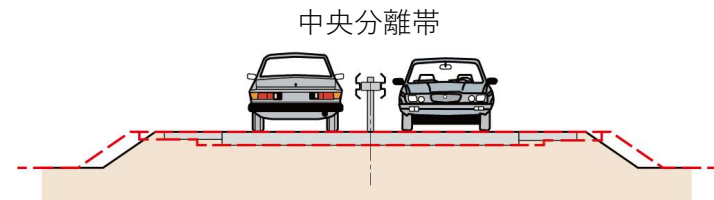
#### 【地吹雪発生区間の対策】

地吹雪が発生しやすい区間は地吹雪を防止する防雪柵を整備します。



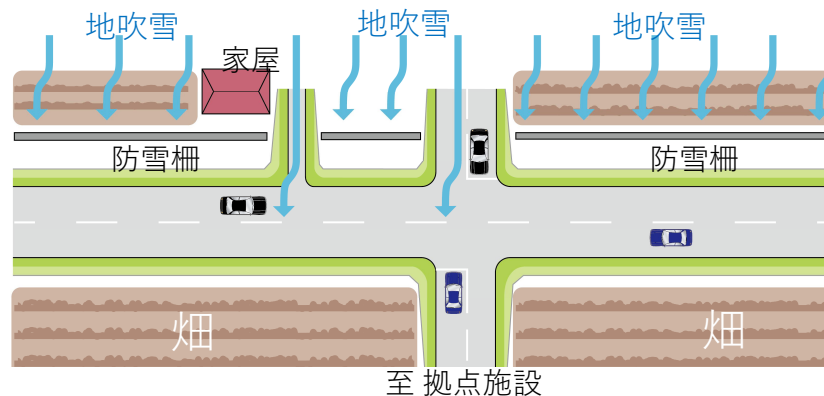
#### 【幅員狭小区間の対策】

幅員狭小区間では、車線や路肩の拡幅を行うほか、正面衝突事故等の多い区間は中央分離帯を整備します。



### ○ 沿道や拠点施設へのアクセス方法

沿道の出入は自由ですが、交差点等は出入確保のため対策ができない場合があります。





# 国道40号中川～天塩間 現道の状況

## 走行環境の状況



狭小トンネルでの  
大型車すれ違い状況(H26.1)

幅員不足でセンターラインを  
超過する大型車(H25.10)

■ トンネル・橋梁等の狭小幅員区間の連続や、冬期悪天候に伴う地吹雪等により走行性が低下しています。

## 安全性の状況



冬期交通事故発生状況  
(H23.12)

狭小幅員箇所での  
路外逸脱事故(H27.3)

■ 狭小幅員区間の連続に伴う事故が多発しています。また、冬期は地吹雪に伴う事故が多発しています。

## 災害の状況

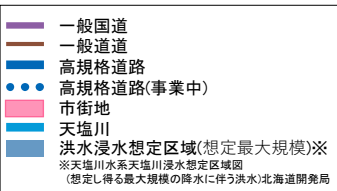
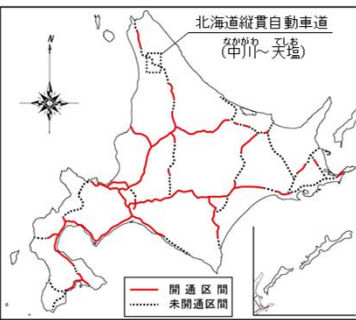
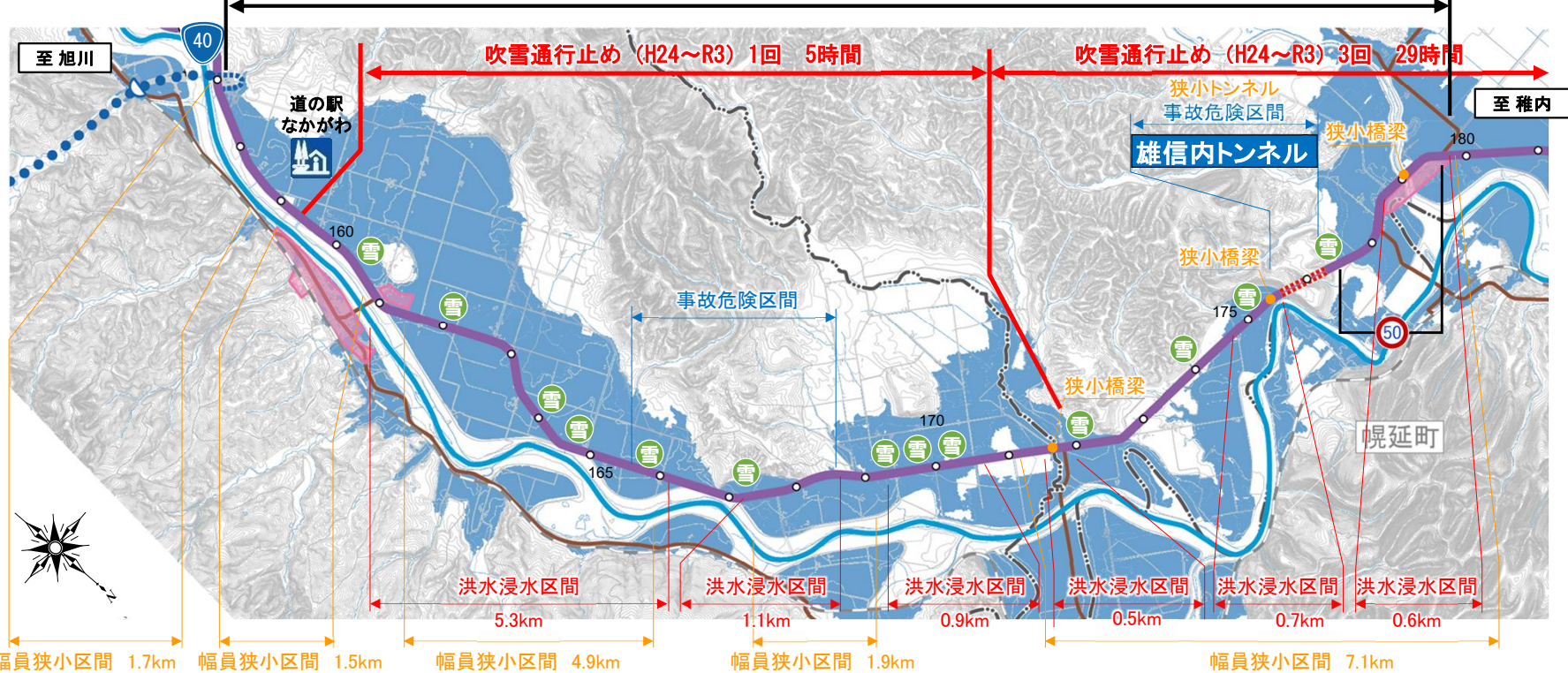


暴風雪時の大型車の  
立ち往生状況(R3.2)

国道の冠水状況  
(H22.8)

■ 冬期は地吹雪や吹き溜まりによる通行止めが発生するほか、天塩川の洪水浸水想定区域が存在します。

## 北海道縦貫自動車道 中川～天塩 約20 km





対策案の比較表

対策案の考え方		【案①】別線市街地アクセスルート	【案②】別線山側ルート	【案③】現道改良ルート
整備イメージ				
区間延長		約20km(自動車専用道路)	約21km(自動車専用道路)	約21km(現道改良)
政策目標	地域の農水産業を支える輸送経路の速達性・安定性・安全性の向上	輸送時の速達性	・稚内港から美深北インターチェンジ(名寄美深道路)への輸送時間短縮効果が比較的大きい (整備前121分→整備後117分、4分短縮)	・稚内港から美深北インターチェンジ(名寄美深道路)への輸送時間は変わらない (整備前121分→整備後121分、0分短縮)
		輸送時の安定性	・速度低下を招くトンネルや橋梁等の狭小幅員区間の回避(狭小トンネル:1箇所、狭小橋梁:3箇所→整備後0箇所) (狭小幅員区間:現況17.1km→整備後0km)	・速度低下等を招くトンネル・橋梁等の幅員狭小区間を拡幅解消(狭小トンネル:1箇所、橋梁:3箇所→整備後0箇所) (狭小幅員区間:現況17.1km→整備後0km)
		輸送時の安全性	・事故危険区間や交通事故を招く地吹雪区間を回避(事故危険区間:2区間→0区間) (地吹雪:現況13区間→整備後0区間)	・事故危険区間で交通安全対策を実施。 ・交通事故を招く地吹雪区間では防雪対策を実施するが、交差点は対策が出来ないため、多くの区間で解消できない (事故危険区間:2区間→0区間) (地吹雪:現況13区間→整備後9区間)
	地域の暮らしを支える高次救急医療機関への速達性・安定性の向上	救急搬送の速達性	・稚内市立病院から名寄市の高次医療施設までの搬送時間の短縮(整備前145分→整備後141分、4分短縮)	・稚内市立病院から名寄市の高次医療施設までの搬送時間の短縮効果は変わらない(整備前145分→整備後145分、0分短縮)
		搬送時の安定性	・地吹雪区間を回避 (地吹雪:現況13区間→整備後0区間)	・現道改良で、防雪対策を実施するが、交差点は対策が出来ないため、多くの区間で解消できない (地吹雪:現況13区間→整備後9区間)
	災害発生時の避難・復旧活動を支える道路の機能確保	地吹雪、洪水浸水に対する道路機能の確保	・地吹雪や洪水浸水想定範囲の回避 (地吹雪:現況13区間→整備後0区間) (洪水浸水想定範囲:現況9.1km→整備後0km)	・現道改良で、地吹雪の対策を実施するが、交差点は対策が出来ないため、多くの区間で解消できない (地吹雪:現況13区間→整備後9区間) ・洪水浸水想定範囲は、現道改良の嵩上げにより解消 (洪水浸水想定区間:現況9.1km→整備後0km)
		代替路の確保	・別線整備することで、代替路の確保が可能	・現道改良するため、代替路は確保されない
配慮すべき事項	地域への影響	家屋や土地利用への影響	・市街地を極力回避するが、一部の家屋や酪農農地に影響がある	・現道の市街地区間も改良するため、沿道家屋への影響が大きい
	環境への影響	自然環境への影響	・地形に沿った道路計画が可能となり、改変面積を抑制することが可能	・現道を改良するため、自然環境への影響は小さい
	工事中の影響	工事中の現道交通への影響	・別線整備のため工事中の現道交通への影響は小さい	・国道の通行規制や沿道利用の現道交通への影響が大きい
	経済性	経済性・概算事業費	・事業費は対策案の中で中位。 約1,050～1,250億円	・現道を改良するため、事業費は対策案の中で安価。 約800～1,000億円

※上記の時間短縮等の数値については、概略延長に対して設計速度を用いて試算した値であり、今後の詳細なルート・構造検討や接続位置等により変更となる場合があります。

# 北海道縦貫自動車道（中川～天塩間）に関するアンケート

## ■質問内容・回答欄

### 問1 対策案（ルート帯案）の検討にあたって、どの項目を重視すべきと思いますか？

次のA～Eの項目それぞれについて、「特に重視すべき」～「重視する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。  
また、各項目の中で特に優先すべき項目一つに✓をつけてください。

	特に重視 すべき	やや重視 すべき	どちらとも いえない	あまり重視する 必要はない	重視する 必要はない	優先 項目
A 道北地域から新千歳空港や苫小牧港等の物流拠点への輸送時間短縮	1	2	3	4	5	
B 道北地域から名寄市の高次医療施設への救急搬送時間短縮	1	2	3	4	5	
C トンネルや橋梁等の道路の幅が狭い区間、事故危険区間の解消	1	2	3	4	5	
D 地吹雪区間や天塩川氾濫による洪水浸水区間の解消	1	2	3	4	5	
E 災害発生時の避難・復旧を支える代替路の確保	1	2	3	4	5	

回答は返信用はがきに記入願います  
※インターネットでも回答出来ます

### 問2 対策案（ルート帯案）の比較にあたって、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか？

次のA～Dの項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。  
また、各項目の中で特に優先すべき項目一つに✓をつけてください。

	特に配慮 すべき	やや配慮 すべき	どちらとも いえない	あまり配慮する 必要はない	配慮する 必要はない	優先 項目
A 家屋や土地利用など地域への影響が小さいこと	1	2	3	4	5	
B 自然環境への影響が小さいこと	1	2	3	4	5	
C 工事中の交通規制による一般交通への影響が小さいこと	1	2	3	4	5	
D 建設に要する費用が安いこと	1	2	3	4	5	

回答は返信用はがきに記入願います  
※インターネットでも回答出来ます

### 問3 インターチェンジとのアクセスを検討するにあたって、どのようなことに配慮すべきと思いますか？

次のA～Dの項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。  
また、各項目の中で特に優先すべき項目一つに✓をつけてください。

	特に配慮 すべき	やや配慮 すべき	どちらとも いえない	あまり配慮する 必要はない	配慮する 必要はない	優先 項目
A 市街地から円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5	
B 医療拠点へ円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5	
C 道の駅等の休憩施設に円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5	
D 防災拠点へ円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5	

回答は返信用はがきに記入願います  
※インターネットでも回答出来ます

### 問4 その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等がありましたらご自由にお書きください。

回答は返信用はがきに記入願います



